東日本大震災に学ぶ
日本再生ビジョン

2011年5月10日

ジャパン・ビジョン・フォーラム講演資料

畑　恵

「東日本大震災」とは

・大量生産・大量消費・大量廃棄型 産業システム
・暴走する市場原理・金融至上主義
・自然に対する“感謝”や“畏敬の念”を忘れた傲慢
・何事につけ他人任せの「依存体質」 etc.

今日的課題を根本から見直すための“天啓”

⇒犠牲になった方々に報いるためにも、
日本人のみならず人類はこの経験から
課題解決の“鍵”を学び取らねばならない

日本にとっての「東日本大震災」とは

“財政危機”、“少子高齢化”、“経済停滞”という
3重の危機を先送りにし衰退し続ける現状を打開し、
起死回生をはかる最大にして最後の好機

・負のパワー（悲しみ・悔しさ、存亡の危機感etc.）を原動力
・日本の強み（科学技術力、文化力、人間力etc.）を礎（いしずえ）
・全世界の英知を結集し、ICTをフル活用
・旧来の枠組や慣行から脱却する新発想と規制緩和

↓

自然と共生し、社会に貢献でき、世界をリードする
サステイナブルな成長モデル「クールジャパン・モデル」
を生産から消費に至る社会全般において創出すべき

東日本大震災で明らかになった5つの力

① 「大自然」の力

② 日本人の「人間力」

忍耐強さ、モラルや相互扶助意識の高さ、気遣いの細やかさetc.

⇒教育力の高さ　＋　利他＝自利的発想

③ 「ソーシャル・メディア」の力

※ ソーシャル・メディア ： ブログ、ツイッター、mixi、フェイスブックetc.

・必要な情報、物資、サービスを必要とする人に迅速に提供

ex.） 被災地ママ支援ブログ、雄勝町・屋根瓦の東京駅舎使用

・デマや詐欺、プライバシー侵害や名誉棄損など負の側面も

④ 「ボランティア」の力

⑤ 「絆」の力　　家族、地域コミュニティ、郷土、生業etc.

東日本大震災で明らかになった
日本、5つの不在

① ガバナンス

・意思決定＝責任 の所在
・情報の収集・分析⇒意思決定システム
・情報の一元化など“ワンボイス”型指揮システム

② リーダーシップ

③ 国際的視点

④ イマジネーション（推測力）

⑤ 評価体制（リスクマネージメントを含む）

日本、5つの不在－1
≪　ガバナンス　≫

○　「意思決定」＝「責任」の所在

どこで、誰が、何を決定し、その責任を誰が負うのか

○　情報の収集・分析⇒意思決定システム

○　情報および指揮命令系統の一元化

・官邸と官僚および東電間の相互不信　「信なくば立たず」

・府省縦割り・自治体縦および横割りの弊害

○　実効ある評価体制と情報開示

・科学的知見に基づいた第3者機関による評価の実施

事実上一体だった東電、原子力安全保安院、原子力安全委員会

・評価の前提となる透明性の確保＝情報開示体制

日本、5つの不在　－　2
≪　リーダーシップ　≫

～前に進む力（＝希望）と方向性を与える能力～

○ 大局的視野

○ 決断力＋行動力

何ができそうではなく、何を達成すべきかで判断し行動する力

○ 覚悟　　全責任を負い、命を賭する腹のくくり

○ 人材活用力

適材適所に人を配置し、能力を最大限に発揮させる力

○ 信頼

率先垂範　「寝ていて人を起こすなかれ」（by:石川理紀之助）

人から信じられる力とは＝人を信じる力　「信なくば立たず」

日本、5つの不在　－　3
≪　国際的視点　≫

○「世界の中の日本」という認識

・情報開示　：　“以心伝心”は通用しない国際社会

⇒客観的・科学的データに基づき論理的で迅速に情報を開示

・情報発信　：　海外および外国人に向けた体制の不備

津波と原発の被害が混同され、放射能で日本壊滅という情報が世界を席巻

ex.）「チェルノ・ニッポン」(仏紙『Le Monde』)などチェルノブイリと福島原発を同列に報道

→専門的知識＋語学力をもった通訳・翻訳者の必要性

○　容赦ない「国際競争」という現実

世界各国からの多大・迅速かつ実効性に富んだ支援への感謝は絶えないが

・「レベル7＝チェルノブイリ相当」という日本つぶし

・サルコジ仏大統領電撃来日の真意

・日本の代替枠を狙う世界⇒産業復旧の“スピード”こそ命

日本、5つの不在　－　4
≪　イマジネーション（推測力）　≫

○　危機を想定する力　　ex.)巨大地震・津波に対する備えの欠如

○　混乱を推測する力　　ex.)計画停電という名の“無計画停電”、
身体的影響を判断できない専門用語と数値のみの放射能に関する発表

○　社会的悪影響を推測する力

ex.)過度の自粛ムード、マスコミやネットが増幅させる風評被害

○　国際的評価の悪化を推測する力

ex.) 汚染水の海中投棄、レベル7引き上げに伴う世界に向けた広報の欠落

○　人の痛みを想像する力

ex.)原発現場での作業環境、被災地支援の遅れ、原発事故避難者への対応など

日本、5つの不在　－　5
≪　評価体制　≫

～正しい「意思決定」は、正しい「評価」から～

○「リスクマネージメント」という発想

リスクとベネフィットを正しく評価し、最適な道を選択

※ 原発に関する判断には特に必須

BUT!　お役所仕事は何事も完璧（=リスク・ゼロ）が建前

→危機の想定および評価体制が不備となりがち

○正確かつ必要十分な事実・データの収集・分析体制

⇒十分な「情報公開」が前提

○評価能力があり公正な評価者と適切な評価基準の設定

cf.）政府・事業仕分け：国益を損ねる専門性を欠いた評価者の判断

震災対応への緊急提言－1

① 短期、中・長期、原発対策は各々分けて議論

・復興構想会議は、中・長期対策を議論

・短期対策は、被災地主導で議論し、本部は被災地に設置

・原発対策は客観的・科学的データと専門家の知見に基づき議論

② ICT（Information & Communication Technology）の有効活用

・被災地のニーズはネットでリアルタイムに収集し迅速に対応

・会議は基本的に通信回線で行い、頻度とスピードを向上

・ネットを通じ国内外から幅広く英知、アイディアを募集・収集

③ 官僚の有効活用

・官僚の能力を最大限発揮させてこその政治主導(≠官僚排除)

・組織的限界(セクショナリズムや年功序列)を是正するのが政治の役割

震災対応への緊急提言－2

④ 復興費用：財源は「復興債」。特別会計で処理

・赤字国債とは峻別。議員定数削減、大胆な行政改革および税対応の3方痛み分けで早期償還を担保し、国際的信用を担保

・復興税導入は首相の政治生命を賭し迅速に決定⇒財政再建へ

⑤ 世界の主要報道機関を日本に招致

報道陣に原発事故関連の事実・現状をその目で確かめてもらう

⑥ 主要各国への特使の派遣

・役職でなく、それぞれの国で信頼度の高い人物を派遣

・原発に関する正しい情報や復興見通しを直接に説明

特にチェルノブイリとの決定的違いをデータとともに説明

⑦ 客観的で科学的なデータに基づいた原発政策

・広島・長崎原爆投下後調査データの米国からの提供要請

新生・日本が目指す「国家ビジョン」

・自然の恵みを享受し、生命が健全に育まれる国
・世界から信頼され、必要とされる国
・雇用や社会保障を維持するに足る経済成長や財政が達成され安心して暮らせる国
・天災・人災を問わず安全が保たれる国
・芸術・文化の豊かさを堪能・伝承できる国

↓

自然と共生し、世界に貢献し、真の豊かさを実感できる

世界トップの省エネ・省資源型「エコ立国」の実現

世界トップの「エコ立国」実現に向けて

○ 科学技術力

⇒エコ製品・エコサービス・エコ生産設備等の開発

ex.)蓄電技術、次世代型送電網、省エネ家電、断熱素材

クリーン・エネルギー、省電力型遠隔操作システムetc.

○ 文化力＋人間力

⇒エコ型ライフスタイルの創造・普及

・日本古来の知恵や考え方　ex.) 八百万に神宿る、循環型江戸エコライフ

・自然に根差した原料・美意識・技術が結実した日本文化

・所有からシェアへ　ex.) カーシェア、シェアハウスetc.

・エシカル（倫理的・道徳的）消費、フェアトレード

・LOHAS (Lifestyles of Health and Sustainability)は日本で最も普及

・関東大震災によって
　耐震・耐火性に優れた現在のマンションの原型
　「同潤会アパート」が生まれ、

・石油危機によって
　産業の主役は、燃料を大量に使う「鉄鋼」などから
　「自動車」や「電機」にシフトし、
　「無印良品」という世界ブランドが生まれた・・・

「真の創造は、逆境の中でこそ見出される」

建築家：ルイス・カーン